

大学院生を対象とした就職活動支援システムの開発

長谷川 忍^{*1}, 太田 光一^{*1}

^{*1} 北陸先端科学技術大学院大学 情報社会基盤研究センター

Development of Career Support System for Graduate Students

Shinobu Hasegawa^{*1}, Koichi Ota^{*1}

^{*1} Research Center for Advanced Computing Infrastructure, JAIST

The purpose of this research is to develop a career support system for senior year students in graduate university who face many problems in job hunting activities. In this paper, we report our developed functions in the system including "Job Offer Search" that students can search for recruitment information, "Company Search" with around 40,000 Japanese company information by vendors, "Job Hunting Activity Survey" and "Decision Report" where students can report job hunting activity status, and "Personal setting" which can manage the students' intention and skill information.

キーワード: 就職活動支援, システム開発, 企業研究支援, 就職活動管理支援

1. はじめに

大学生や大学院生の就職活動の長期化が顕著になり、学業や研究活動への弊害が指摘される昨今⁽¹⁾, こうした就活生にとって、適切かつ効率的な就職活動を行う必要性はますます高くなっている。

こうした問題を解決するため、近年、就職活動支援に対する様々なアプローチが行われており、就活生の指導や支援を目的とした就職活動支援システムも提案されている^(2,3,4)。筆者らが所属する北陸先端科学技術大学院大学においても、2015年度から従来の就職情報システムを更新した JAIST Career Support System が運用され、ニーズに応じた機能拡張を行ってきた。本稿では、大学院生を対象に開発・運用しているシステムの機能および現状について紹介するとともに、今後の構想について述べる。

2. 関連研究

高等教育機関における就職支援活動は、就活生に向けた教育活動の一環と位置付けられ、校内での企業説明会やインターンシップ募集活動等を含む就活生と企業間のマッチング機会の提供が大きな要素となっている。さらに、個別指導による進路相談、エントリーシートの改善や面接スキルの向上等の支援もしばしば提

供されている。

さらに、近年では就職活動支援のためのシステム開発事例も多く報告されている。マイナビ⁽⁵⁾やリクナビ⁽⁶⁾に代表される就職支援サイトとは異なり、各高等教育機関が持つ専門性や学生の特徴、長年に渡る就職状況等の情報に基づいた校内就職活動支援システムの開発が行われている。就活生のニーズに合わせた就職活動支援に関連するものとしては、就活生間の就職活動に対する情報共有の促進を目的として、就職活動における先輩の就職経験や同期生の就職活動の進捗状況を携帯端末で確認できるシステムが挙げられる⁽⁴⁾。また、就活生の要望に応じた企業情報推薦を目的として、企業に関連するニュースから評価や話題性を抽出し、まとめて就活生に提示するシステムも開発されている⁽²⁾。

筆者らもこれまでに以下のような就職活動支援システムおよび支援機能を開発してきた。

- ・ 就活生が必要とする情報の構造を示す“観点”を利用して適切な企業情報の検索とその提示を支援する機能⁽⁷⁾
- ・ 企業が採用時に重視する項目と就活生のアピールポイントのギャップに注目した関連企業推薦機能⁽⁸⁾
- ・ 就職活動を構成する様々な行動に関する適切な開

や具体的な業務・採用職種等に関する情報が確認できる。

図 3. 求人情報検索結果画面

3.4 企業情報検索機能

企業情報検索機能は、本学が契約・保持する企業情報データベースの横断検索を行える機能であり、現在約 4 万社のデータが登録されている。検索条件入力部、検索結果表示部は、ほぼ求人検索機能と共通したインタフェースとなっている。

図 4 に企業情報の詳細画面を示す。求人票や就職担当教員と企業担当者の懇談内容等といったシステム内に存在する関連情報へのリンクは画面上部に表示される。

図 4. 企業情報詳細画面

3.5 採用実績検索機能

採用実績検索機能は、本学の修了生の採用実績を検索する機能である。採用実績は図 5 に示す通り研究科毎の合計が最上部に表示され、採用があった年度の各研究科の採用人数がその下に表示される。

図 5. 採用実績詳細画面

3.6 就職活動状況調査機能

就職活動状況調査機能は、就活生が進路希望や就職活動状況を報告・更新するための機能である。本学の就職支援室では、博士前期課程の学生を対象に毎月進路希望・就職活動状況調査を行っており、対象学生は本機能を利用して回答を行うルールとなっている。

図 6 は就職活動状況一覧画面であり、就活生が登録済みの活動状況の一覧表示および検索を行うことができる。活動中の会社単位で進捗状況の編集を行うことを通じて、現在の就職活動状況を報告できる仕組みとなっている。

図 6. 就職活動状況調査機能

また、就職活動のステータスが活動終了（内々定または選考終了）になると、図7に示すような当該会社に対する就職活動レポートを提出することが可能となる。これは就活生が応募した企業の選考スケジュール（就職活動状況調査で入力したもの）や選考情報に関する体験談を登録することができる機能である。就活生は自身のレポートを登録するだけでなく、過去の修了生のレポートを閲覧することも可能となっている。また、レポートは匿名化されているが、希望する就活生はシステムからレポートを記述した先輩へコンタクトを取るためのメールを送信することができる。本学では学生に対して生涯 ID を付与する方針を取っているため、修了者が修了後もメール受信設定をしていれば、修了後もコンタクトを受け取ることができる。

図7. 就職活動レポート機能

3.7 進路決定届機能

進路決定届機能は、最終的な進路が決定した際に提出するものである。会社名についてはその一部を入力することで本学の企業情報データベースから会社名を検索することができる。この入力結果を利用して、3.5節の採用実績が集計される。

3.8 個人情報設定機能

個人情報設定機能は、就職支援担当者が進路指導を行う上で基礎となる情報を集約するためのものである。求人情報の到着情報に関するメール配信希望や、自身の進路希望・研究状況・学歴・職歴・資格・英語成績・SPI成績などをまとめて管理することができる。

3.9 ダッシュボード機能

システムへのログインが成功すると、図8のようなダッシュボード画面が表示される。上述した機能にはこのダッシュボードページから遷移することができる。また、最新の求人情報や就職支援係からの連絡もこちらに表示される。

また、本稿では紹介しなかったが、学内で開催されたセミナー動画の配信等についても本システムから視聴することが可能である。

図8. ダッシュボード機能

4. 運用における課題と今後の方向性

本システムは運用しながら就活生および就職支援室のニーズを取り込むことで拡張してきた。ここでは、現在の運用に関する課題と今後の拡張の方向性について述べる。

現在のシステムの運用を開始してから約4年が経過したが、企業情報のメンテナンスは一つの重要な課題となっている。企業情報については外部のデータベースの購入などを行っているが、企業形態の変更による管理IDの変更(持ち株会社化)や企業名の変更、企業間の吸収・合併などの変化も一定数あり、学内で蓄積している採用実績等との対応付けは重要な課題である。現在は人手によるメンテナンスが必須であるが、今後これらを支援する機能を開発する必要がある。

本学における特徴的な課題として留学生対応が挙げられる。40%を超える留学生が在籍しており、その中

の一定数は日本語の読解能力に制限がある。システムの基本的な UI は日英切替機能を付与しているが、企業情報などの外部データは日本語にしか対応しておらず、留学生に対する対応も大きな課題となっている。

企業・職種研究支援の観点からは、職種や業種、企業を幅広く検討するために、検索・推薦機能に加えて、図 9 に示すような、就活生毎に企業・職種研究が行える集約機能を提供することを検討している。さらに、こうした企業・職種研究の内容をシステム内で共有できれば、学内企業情報の一部として再利用することも期待できる。

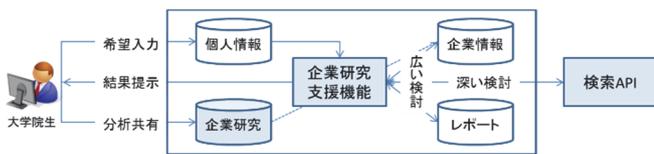


図 9. 企業・職種研究支援機能の次の構想

就職活動管理機能の観点からは、就職活動を就活生が一種のワークフローとして管理できるようなスケジューラの開発を検討している。こうしたスケジューラは学内のリアルな就職活動関連支援（イベントや面接練習等）の予約にも活用することができ、またスケジューラと就職活動状況報告を連動させることで報告の負担も減らすことが可能である。まとめると、図 10 に示すような形で就職活動の情報を収集することができれば、就活計画を支援する一助になることが期待される。一方で、こうしたサービスを提供するためには就職活動中に確認や入力することが必要となるため、サーバに対して学外からアクセスすることが必須となる。セキュリティの観点からこうしたアクセスが許容できるかどうかについても検討が必要である。

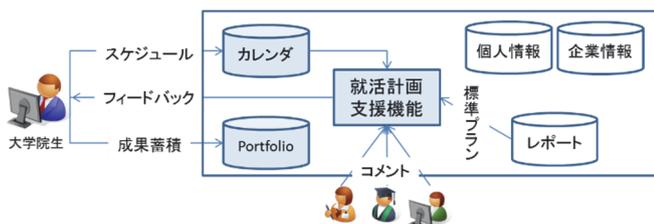


図 10. 就職活動管理機能に関する次の構想

5. おわりに

本稿では、本学で開発している大学院生向けの就職活動支援システムの概要および今後の構想について議論した。実運用におけるさらなる課題として、入力・更新しない学生にどのように動機づけを行うか、企業情報や経験情報のリアルタイム性をどう確保するかなどを通じてさらにシステムが活用されるように改善を続けていきたい。

参考文献

- (1) 田中宣秀：“理想像とは程遠い我が国の採用活動—就職協定が廃止されてから 10 年が経過して”，生涯学習キャリア教育研究第 2 号，pp.11-13, (2006).
- (2) 鮑若愚,白井康之,湊真一：“就職活動就職者向けの企業情報推薦システムの提案”，情報処理学会第 76 回全国大会，4N-7, pp.1621-1622, (2014).
- (3) 赤木里騎,福島亮,徐海燕：“学年を超えた就職支援システムの構築”，平成 28 年度電気・情報関係学会九州支部連合大会，11-2A-08, pp.321, (2016).
- (4) 三鬼安加里,南野謙一,後藤裕介,渡邊慶和：“研究室における就職支援システムの開発”，情報処理学会第 73 回全国大会，3ZD-5, pp. (4-569)-(4-570), (2011).
- (5) マイナビ 2020 ,<https://job.mynavi.jp/2020/> (2019/8/21 アクセス).
- (6) リクナビ 2021, <https://rikunabi.custhelp.com/app/home/p/1024> (2019/8/21 アクセス).
- (7) 岡田昌也,長谷川忍：“就職活動における企業研究支援システムの開発”，信学技報 112(269), pp.77-82, (2012).
- (8) 何陽,長谷川忍：“就職活動支援システムにおける企業情報推薦機能の開発 -企業の採用項目と就活生のアピールのギャップに注目して-”，情報処理学会研究報告 2019-CLE-27, Vol.23, pp.1-8, (2019).
- (9) 野村修平,長谷川忍：“就職活動における行動決定支援システムに関する研究”，人工知能学会先進的学習科学と工学研究会資料 SIG-ALST-B203-6, pp.27-30, (2013).
- (10) 長谷川忍,高橋咲江,柏原昭博：“インフォーマルな経験情報の共有に基づく就職活動支援 SNS の開発”，教育システム情報学会誌 27(2), pp.199-210, (2010).